トヨタネおすすめ 機能性緑肥

3～5月播種編

らい麦

☆ライ太郎

・アブラナ科**根こぶ病菌の菌密度減少**効果がある
・低温条件下でも発芽ができ、初期生育が旺盛
・キタネコブセンチュウに対して高い抑制効果がある

左：ライ太郎
右：他品種

播種量：8～10kg/10a　すき込み期：播種後60日前後

播種期：3～5月　180～250

カバークロップとして利用可能

★R-007(ウィーラー)

・春播きでは穂が出にくく、種落ちの心配がない
・高温期に生育が停滞し、梅雨明け頃から倒伏し圃場を覆う
・倒伏後、小型トラクターでもすき込み可能！

播種量：10kg/10a　120～140
播種期：4月～5月中旬
すき込み期：倒伏後、適宜

5月播き
→7月下旬の様子

エンバク

ヘイオーツ（アウェナストリゴサ）

・アブラナ科**根こぶ病菌の菌密度減少**効果がある
・キタネグサレセンチュウに対して高い抑制効果
・生育が早く、60日栽培で堆肥2t分相当の有機物補給が可能

播種量：10～15kg/10a

播種期：3～5月　すき込み期：播種後60日前後　(草丈80cm～出穂始め)

100～120

※すきこみが遅れると落下子実の発芽のおそれがあります

※アブラナ科野菜の黒斑細菌病が発生する圃場では
耐性のあるらい麦「R-007」をご利用ください。

根こぶ対策のすゝめ

●フルスルファミド剤を使用している場合には効果が期待できない

●菌が活性化する時期に栽培する必要あり　菌の活性適温：20～25℃

(豊橋平均気温) 5月下旬：20.3℃ 6月上旬：21.0℃ 6月中旬：22.3℃

トヨタネおすすめ 機能性緑肥

3～5月播種編

ヘアリーベッチ

・根粒菌によって空中窒素を土壌に固定する →肥料成分の有効活用
・ほふく性とアレロパシー効果 →雑草抑制効果
・水はけの良い土壌を好む →排水対策の実施

播種量：3～5kg/10a　すき込み期：開花前後(草丈30～40cm程度)

播種期：2月下旬～4月上旬　※草丈40cmでの窒素集積量は約7kg/10a

30～50

～早晩性の違い～

早 **まめ助、ナモイ→藤えもん→寒太郎** 晩

～耐湿性の違い～

(基本的に水はけの良い圃場を好む…)

強 **寒太郎→藤えもん→まめ助、ナモイ**

品種選定ポイント

早生品種
雑草に負けない
初期生育！

晩生品種
長期の栽培が可能

～すき込みの方法～
フレールモアなどで**細断**
→黄褐色に変色したら**すき込む**

すき込み後、3～4週間後に定植

※草丈40cm未満の場合にはロータリーでの直接すき込みも可能

カラシナ

いぶし菜、黄花のちから、辛神

50～140　100～150　100～160

・土壌病原菌低減効果が期待できる
(ジャガイモ黒あざ病、トマト青枯病
ホウレンソウ萎凋病、サツマイモネコブセンチュウなど)

播種期：2～3月　播種量：1～3kg/10a

すき込み期：着蕾期～開花始め

⚠ **アブラナ科根こぶ病発生圃場での使用は避ける**

できるだけ細断→できるだけ早くすき込む
(土壌水分が多いとガス化が促進される)

露地：鎮圧でガスを留める
→3～4週間後に播種(定植)

ハウス：2週間程度ビニール被覆
→除去後、1～2週間後に播種(定植)